

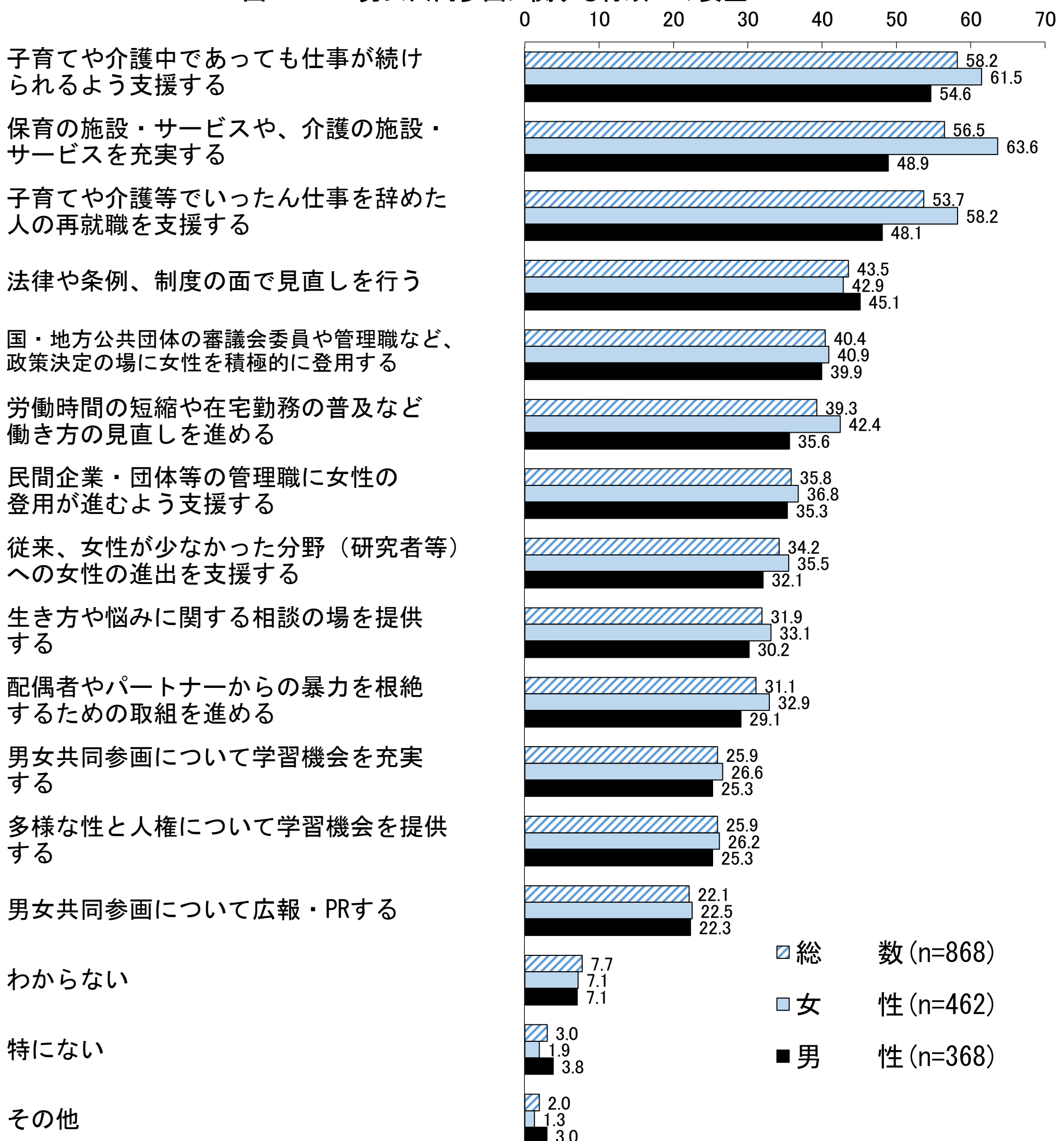
10 男女共同参画に関する行政への要望

問18 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ・男女共同参画社会を実現するために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思うか聞いたところ、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が58.2%で最も高く、次いで「保育の施設・サービスや、介護の施設・サービスを充実する」が56.5%、「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が53.7%となっている。
- ・性別にみると、女性はすべての項目で男性よりも高い割合となっており、「保育の施設・サービスや、介護の施設・サービスを充実する」で男女差が最も大きくなっている。

図18-1 男女共同参画に関する行政への要望

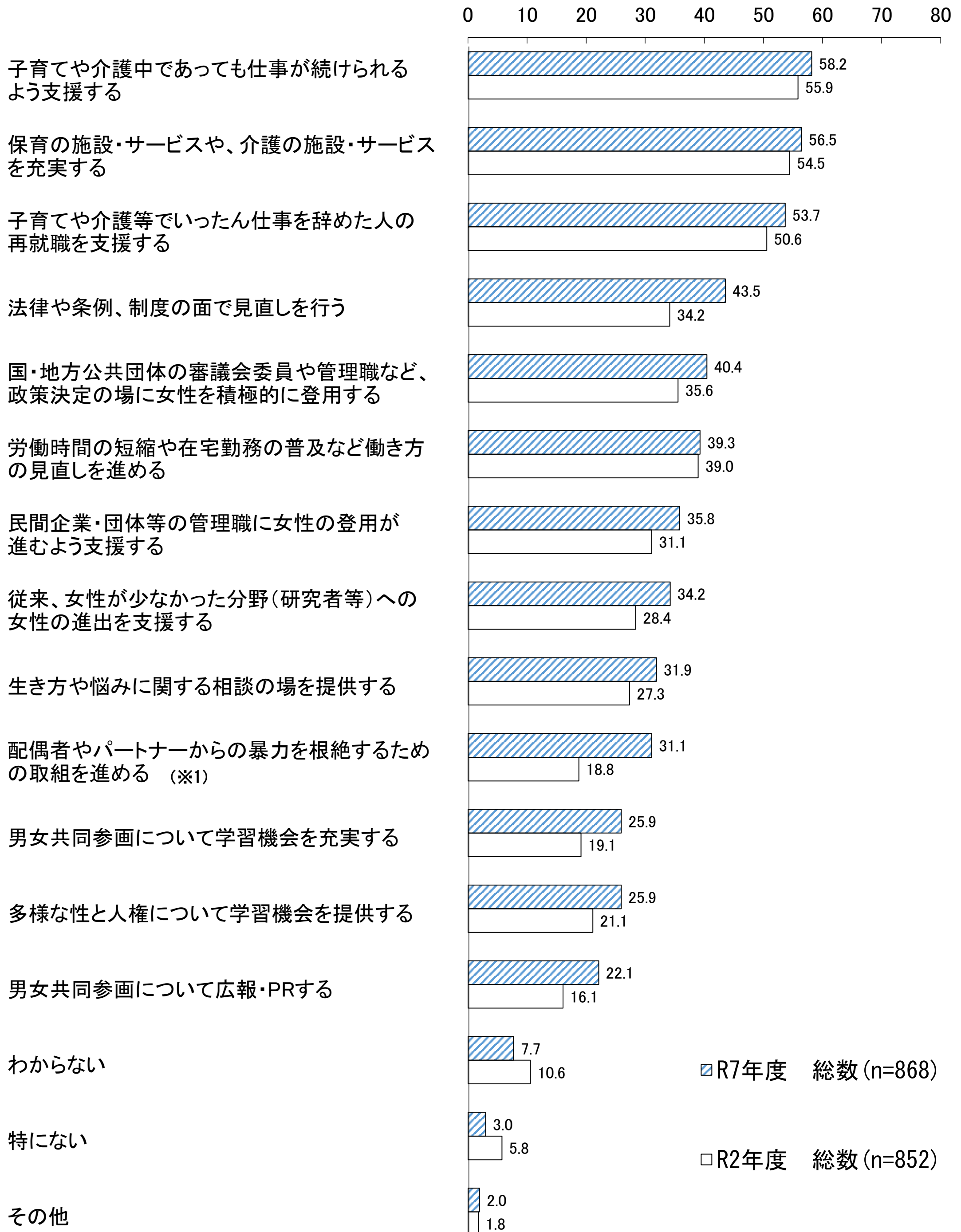
(複数回答) (%)



【参考：前回比較】

図18-2 男女共同参画に関する行政への要望(前回比較)

(複数回答) (%)



※1 前回調査では、「配偶者やパートナーからの暴力に関する意識を啓発する」

問19 性別にとらわれず、個性や能力が尊重され、自分らしく生きることができる社会にしてい
くために、何が大切だと思いますか。自由にご記入ください。(上限200字)

- ・性別にとらわれず、個性や能力が尊重され、自分らしく生きることができる社会にしてい
くために、何が大切だと思うかについて、自由記述の内容から名詞を抽出し、単語の出現頻度を
ワードクラウドとして可視化した。よく使われた語句をみると、全体では「社会」が最も多
く、次いで「自分」「理解」「教育」「必要」の順となっている。
- ・また、女性は「環境」「大切」「偏見」、男性は「女性」「個性」「能力」が多く、出現頻
度に男女の差異がみられる。

図19-1 ワードクラウド 頻出単語イメージ(全体)



図19-2 ワードクラウド 頻出単語イメージ(女性)



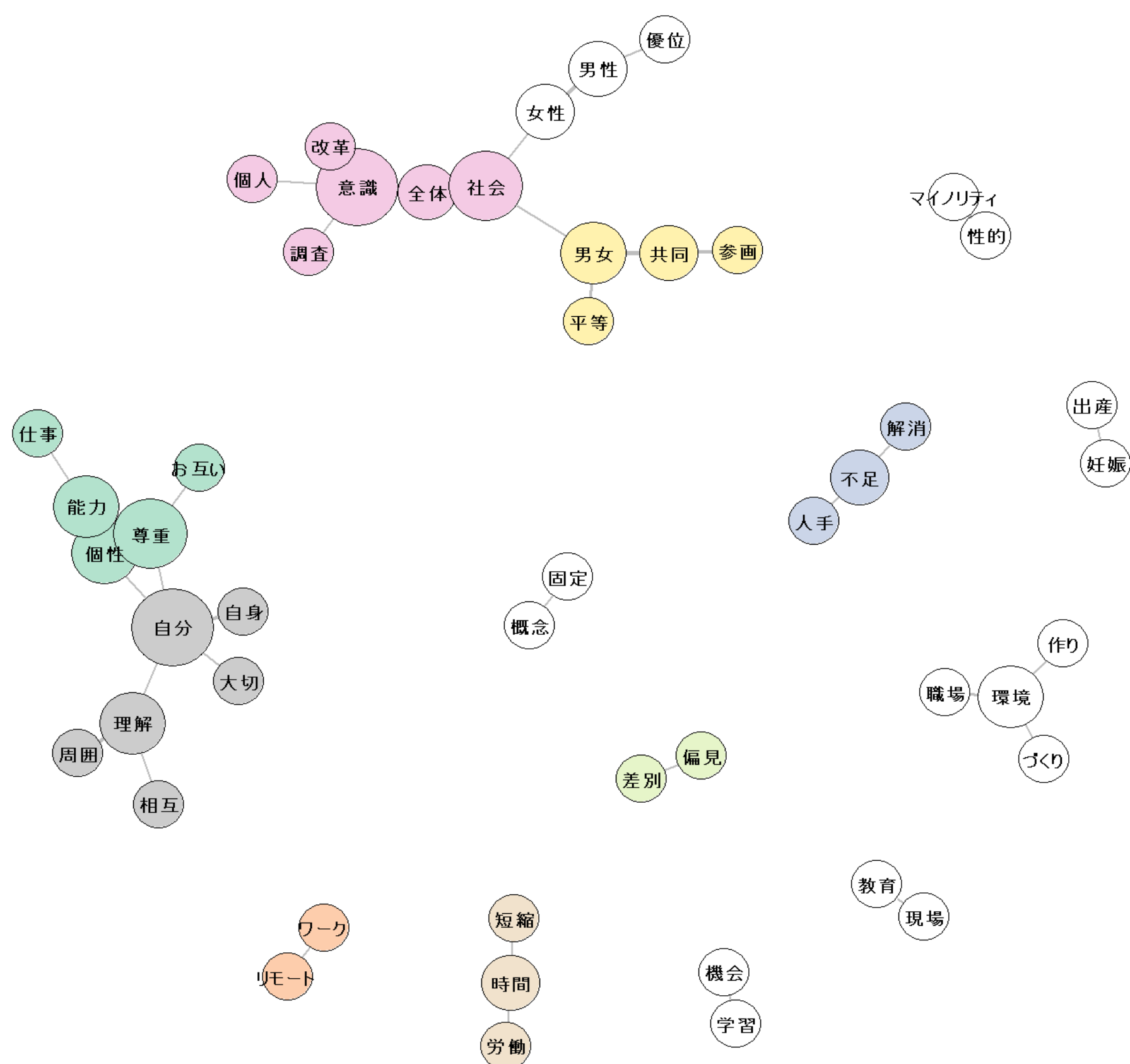
図19-3 ワードクラウド 頻出単語イメージ(男性)



※文字が大きい程、出現回数が多い。文字色、位置については特段の意味はない。

- ・次に、出現頻度の高い単語間の関連性を明らかにするため、よく一緒に使われている（共起）語を結び付けた「共起ネットワーク」分析を実施した。
- ・図の左側にある最大のクラスターは、「自分」を中心に「自身」「大切」「理解」「相互」「周囲」が密接に結びつき、さらに「尊重」という言葉を介して、「個性」「能力」「お互い」「仕事」へと広がっている。「自分」については、「自分らしさ」や「自分らしく」といった、個人の尊厳につながる表記もみられた。
- ・図の上部にあるクラスターは、「意識」を核として「改革」「全体」「個人」「調査」がつながっており、「社会」を通じて「男女」「共同」「参画」「平等」という言葉に発展している。
- ・このほか、図の右側「職場」「環境」「づくり」や、「教育」「現場」、図の下部「労働」「時間」「短縮」などといったグループが点在している。

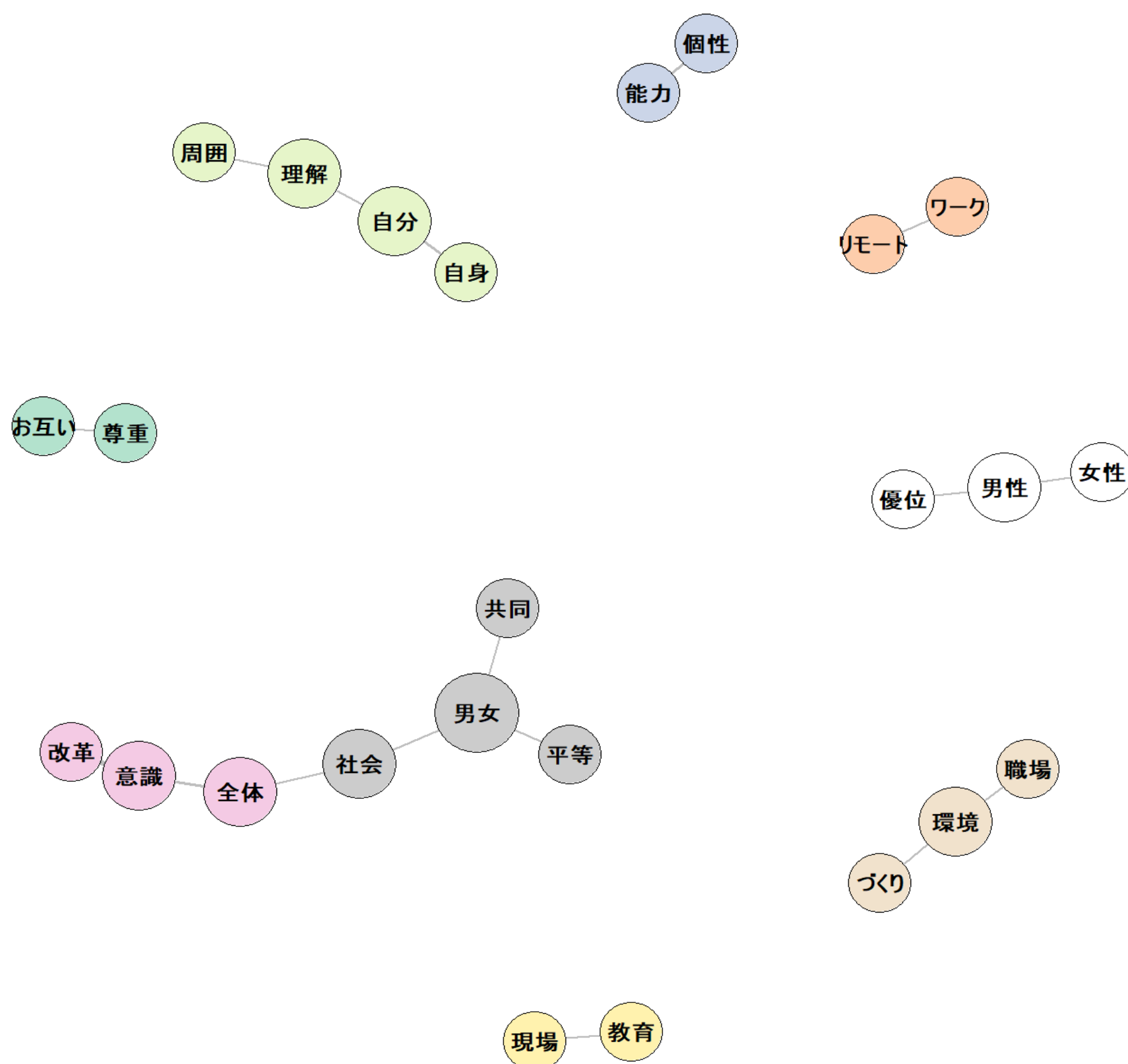
図19-4 共起ネットワーク(全体)



※この図におけるノード（丸）のサイズは、そのノードがどれだけ多くの他のノードと接続されているか（接続の頻度）に依存している。接続数が多いノードほど大きな丸になる。

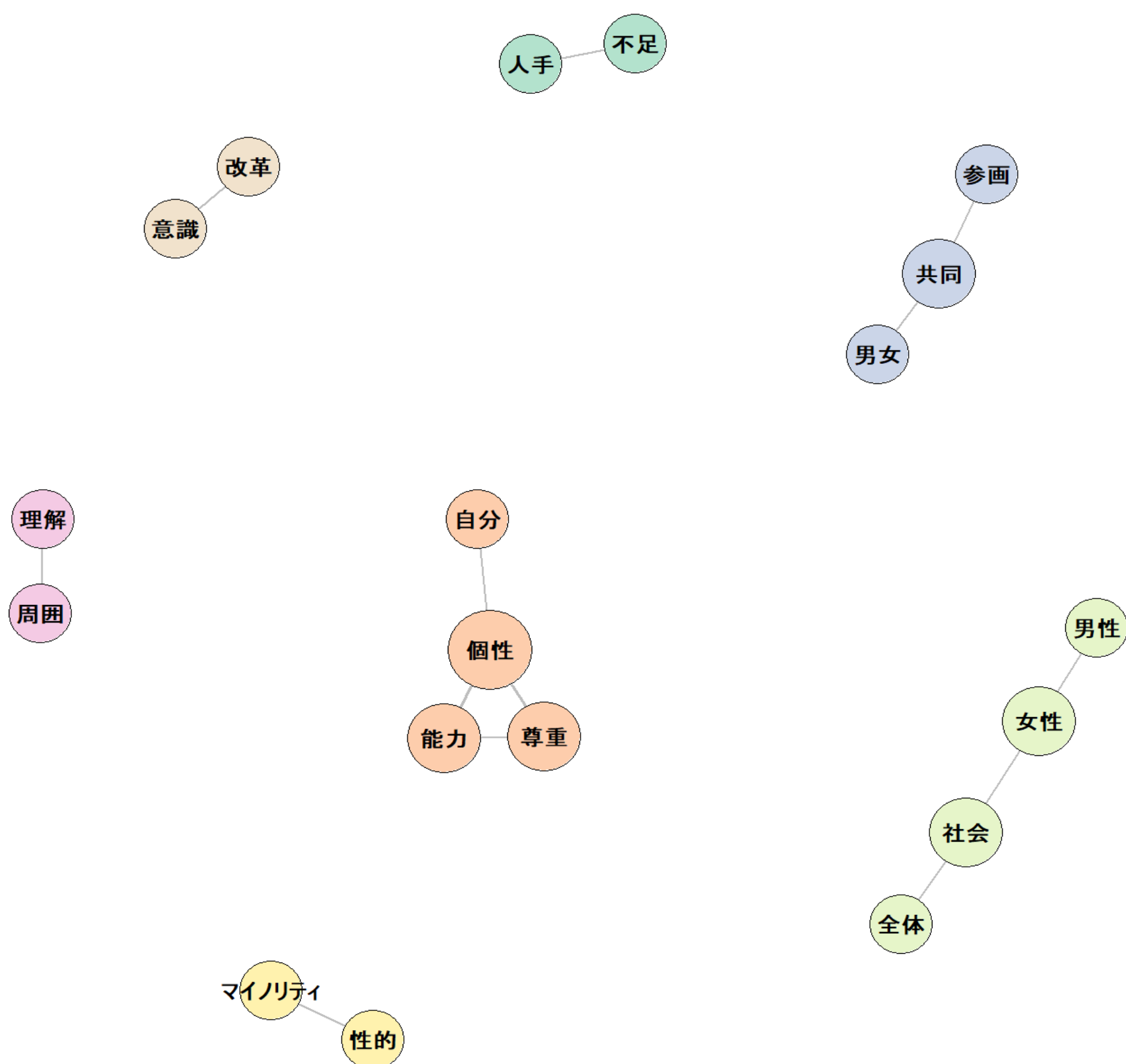
- ・性別にみると、女性の「共起ネットワーク」では、図の中央左側にあるクラスターは、「男女」を中心に「共同」「平等」というキーワードにつながり、さらには「男女」から「社会」「全体」「意識」「改革」に一連の流れでつながっている。
- ・図の左上のクラスターでは、「自分」「自身」「理解」「周囲」が一直線につながっている。
- ・このほか、図の上部から時計回り順に、「個性」「能力」、「リモート」「ワーク」、「女性」「男性」「優位」、「職場」「環境」「づくり」、「教育」「現場」、「お互い」「尊重」といったグループが点在している。

図19-5 共起ネットワーク(女性)



- ・男性の「共起ネットワーク」では、図の中央にあるクラスターは、「自分」から「個性」「能力」「尊重」が網目状（三角形）につながっており、「個性」「能力」「尊重」が相互に依存している。
- ・図の右下の「男性」「女性」「社会」「全体」と、右上の「男女」「共同」「参画」が2つの独立したグループでそれぞれ直線につながっているが、これらは、上部の「意識」「改革」のグループとつながっていない点が女性と異なる。
- ・このほか、図の左下にある「性的」「マイノリティ」や、上部の「人手」「不足」などのグループが点在している。

図19-6 共起ネットワーク(男性)



- ・問19の自由記述について、生成AIを用いて文脈を考慮してカテゴリライズし、コメントの抜粋、概要文の作成を行った。
- ・自由記述のカテゴリライズ、コメントの抜粋、概要文についてはAIが生成したものであることに留意する必要がある。

1. 【教育・意識改革】価値観の根底からのアップデート

- ・「アンコンシャスバイアスを必ずもっている、それを変えていく必要がある、ということを繰り返し教育し、浸透させていくことが重要。」（女性・50歳代）
- ・「最重要なのは『根強い男性優位意識の改革』。現在の小・中・高の一斉教育では、皆が同じ方向を向かざるを得ない。授業のあり方を根本から見直さなければならない。」（男性・70歳代以上）
- ・「年配者への教育・セミナーの実施（自分の若い頃は、とか古い固定概念を無くし時代に合った考えを持たせる教育）。若い世代へのモラルの教育。」（男性・50歳代）

2. 【相互理解・尊重】「個」としての尊厳と寛容な心

- ・「自分と違う価値観や生き方を受け入れ、自分が思う『普通』という概念を押し付けない。自己理解と他者理解が大切であると思います。」（女性・40歳代）
- ・「自分に自信があれば、他人から何を言われても受け流せる強さを持てると思います。まず自分で自分を尊重すること。自信をもつこと。」（女性・30歳代）
- ・「異なる価値観、考え方を受け入れ違いを否定しない柔軟な心が必要。誰もが多様な働き方生き方の中から自分に合ったものを選択できる社会。」（男性・40歳代）

3. 【労働環境・経済基盤】持続可能な社会システムの構築

- ・「県全体でリモートワークを推進して欲しい。都会と同じ収入があれば身体的に余裕ができ、農作業を手伝える若者も増えるはず。収入の面で結婚を考えられない人が多い。」（女性・30歳代）
- ・「出産後の女性が、出産前と変わらない賃金・立場で働けるような環境を整えるべきです。」（女性・20歳代以下）
- ・「とにかく青森県は給料が全国に比べてかなり低いので給料を上げるべき。そうすると県外流出を防げると思う。」（男性・30歳代）
- ・「企業側に年齢や性別に関わらず採用する姿勢が必要。人生に病気や介護等のどうしようもないイベントがあるので、ブランクがあっても積極的に採用してほしい。」（男性・70歳代以上）

4. 【ライフイベント・共助】特性の理解と支え合い

- ・「女性には女性にしかできないこと、男性には男性にしかできないことがあることをまず理解して、そして、自分の周りの人に気を遣う気持ちをもてること、ストレスフリーになることが大事だと感じます。」（女性・60歳代）

- ・ 「子どもを育て終わった年配の方々を頼ってくれたら子育てがもう少しラクになると思う。年配の人にもっと頼って自分らしく暮らすことが大切。」（女性・70歳代以上）
- ・ 「男性も女性も、安心して仕事や育児や家庭での生活ができることによって、国の争いもなくなるし、未来も明るくなる。」（男性・30歳代）

5. 【地域性・安全・尊厳】地方の風土刷新と安心して暮らせる社会づくり

- ・ 「青森県、東北地方の人は内向的、保守的、自身の正義から外れたことは排除しようとする傾向にある様に感じる。個性を『ありなんだ』と思わせるような、先駆的な存在が必要。」（女性・50歳代）
- ・ 「性的マイノリティを含めて、性別ではなく能力に応じた仕事・立場に就けるよう、社会全体として性が問題とならないことを受け入れる必要がある。」（男性・50歳代）
- ・ 「青森は地方で保守的で発展途上と言っても仕方ない。若い次の世代が暮らしやすくするためにも、古い価値観に囚われず、じっくりやっていくしかないと思う。」（男性・40歳代）